

令和 7 年 第 9 回
川西市教育委員会（定例会）議事日程表

会議日時 令和 7 年 4 月 1 7 日（木） 午後 2 時から
場 所 川西市役所 4 階 庁議室

日程 番号	議 案 番 号	付 議 事 件	備考
1		議事録署名委員の選任	
2		前回議事録の承認	
3		教育委員の活動について	
4	報告 第 1 号	専決報告について （川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則の制定について）	
5		諸報告 清和台地区地域説明会について	

令和 7 年 第 9 回

川西市教育委員会（定例会）議案書

川 西 市 教 育 委 員 会

目

次

- 報告 第 1 号 専決報告について
(川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則の
制定について)

報告第 1 号

専決報告について

下記の事件は、急施を要したため、教育長に対する事務委任規則（昭和31年川西市教育委員会規則第11号）第4条第1項の規定により処理したので、同条第2項の規定により報告し、承認を求める。

令和7年4月17日提出

川西市教育委員会

教育長 石 田 剛

記

川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則の制定について

専決第 1 号

川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則の制定について

川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則を別紙のとおり制定するについて、教育長に対する事務委任規則（昭和31年川西市教育委員会規則第11号）第4条第1項の規定により専決した。

令和7年4月1日専決

川西市教育委員会

教育長 石 田 剛

川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則をここに公布する。

令和7年4月1日

川西市教育委員会
教育長 石 田 剛

川西市教育委員会規則第 号

川西市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則の制定

川西市教育委員会事務処理規則（昭和42年川西市教育委員会規則第13号）の一部を次のように改正する。

第19条に次の1項を加える。

- 2 前項の場合において、部長が特に必要と認める事項については、専決者の直上位者がその事項の代決をする。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

川西市教育委員会事務処理規則（昭和 42 年川西市教育委員会規則第 13 号）新旧対照表

現行	改正後（案）
（課長が不在の時の代決） 第19条 課長が専決する事項について、課長が不在であるときは、課長補佐を置く課にあつては課長補佐がその事項を代決する。	（課長が不在の時の代決） 第19条 課長が専決する事項について、課長が不在であるときは、課長補佐を置く課にあつては課長補佐がその事項を代決する。 2 前項の場合において、部長が特に必要と認める事項については、専決者の直上位者がその事項の代決をする。

諸 報 告

令和 7 年 4 月 1 7 日（木）

1．清和台地区地域説明会について

（教育政策課）

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月22日 10時～ 清和台小学校

発言順	質問	回答
1	市長は教育の質を高めることに力を入れており、30代と0歳～9歳が増えていと説明されています。しかし、清和台の児童数の減少に関しては、教育委員会だけでなく市の住宅政策などにも問題があると感じています。 学級規模の上限は35人とされていますが、児童数が少ない場合、どの程度の人数であれば教育の質を維持できるのでしょうか。例えば、1学年18人ずつの2クラスにした場合はどうでしょう。他の自治体でさらに少ない人数で頑張っている学校もあると聞きます。	1クラスの児童数、生徒数につきましては、審議会においても議論しました。現在は、国の基準で、小学校は35人、中学校が40人となっています。小学校では、1学年36人の場合は、1クラス18人の2クラスとなります。よって、1クラスの人数は18人～35人という現状です。 審議会では、クラスを運営するには、20人～30人ぐらいが教員の目が届きやすいという議論もありました。しかし、現在教員の確保が非常に困難な状況になっています。市独自で、30人学級、25人学級とした時に、教員の確保が難しいだろうという意見もありました。 川西市として、現時点では、国の基準に準じた35人学級で運営していきたいと考えています。
2	単純に児童数が少なくなったから規模を縮小するという教育の視点からではなく、まずは、まちづくりの視点から考える必要があるのではないのでしょうか。 例えば、島や過疎地などの事例については、地理的・社会的な特性をどう捉え、どのように対応していくのが明確に示されていないように思います。 さらに、望ましい学校規模の説明についても、清和台地区に即した説明はあまりないと思いました。学識経験者や審議会の方がどのように考えておられるのかお聞きしたいです。	少子化については国レベルの大きな問題であり、川西市独自でどのような政策を進めていくかという視点は市長事務部局も考えています。いただいた意見については、市長事務部局にお伝えしたいと思います。 教育委員会としては、学校本来の目的である、子どもが学ぶ場として、現在どのような課題に直面しているかという視点で説明させていただきました。
3	教員の定員数について、兵庫県基準のことですが、これを超えた教員の配置は、県費の目的加配があると資料に記載されています。これらは、子どもたちの支援をする上で、十分な数を配置できているのですか。	現状、県の目的加配につきましては、全て配置されており、未配置ということはありません。
4	クラス数の推移について、生まれた子どもの数や、園所に通っている子どもの数などから見て、今後、小学生の数が増える見込みはありますか。	住民基本台帳をもとにした人数は、清和台小学校区において、0歳児が21人、1歳児が26人、2歳児が21人、3歳児が29人、4歳児が30人、5歳児が34人というデータがあります。 清和台南小学校区では、0歳児が23人、1歳児が21人、2歳児が17人、3歳児が26人、4歳児が27人、5歳児が27人となっています。 この数字をもって、今後の入学者数を正確に予測することは難しいですが、全体的な傾向を考慮すると、2クラスに増えていく可能性は低いと考えられます。
5	今回の『あり方基本方針』について、小学校の統合や望ましい学校規模に向けた議論において、集約することによるマイナス点やリスクについては、十分に触れられていないと感じました。審議会の中で議論が行われたのか伺いたいです。	審議会の中で、集約した際のリスクやマイナス面についての議論はありました。 大規模校と小規模校のプラス面、マイナス面を議論いただく中で、それぞれが表裏になる面が多かったと考えています。
6	学校運営や学校規模のことばかり言われ、小学校が地域の中でどういう存在であるのか、子どもたちにとってどうなのかということは一切説明がなく、小規模校はゆくゆくは統廃合するんですよという説明に聞き取れました。 以前に統廃合の問題があった時、保護者や地域から、学校を統廃合しないでという声がたくさんあり、市も白紙撤回したと思います。それがまた持ち上がっているということに納得がいきません。清和台小学校区は広く、石道など、いろいろなところから子どもが学校に通っています。通学路の距離が長くなることがないよう、清和台小学校を残していただきたいと思っています。 『学校のあり方基本方針』は、いつ策定されたのでしょうか。 統廃合について、この1年間の中で決定するのか、しっかり子どもたちの声や地域の声、いろいろな方々の声を聞いて検討していただきたいと思っています。	『学校のあり方基本方針』の策定について、審議会で令和6年10月29日に、『学校のあり方基本方針』の素案という形で答申を頂きました。その後、市議会と共有し、パブリックコメントを12月の中旬に実施しました。そして、令和7年1月に教育委員会としてこれを決定させていただいたという経緯で策定しております。審議の経過については、ホームページに掲載しております。 また、小学校を残してほしいという思いにつきましては、ご意見として賜りたいと思います。 現時点で決まっているのは、児童数が減少しているという現状を、まず共有することだけです。今回の説明会で統合への了承を得るなどは考えておりません。これから、保護者の皆さまや子どもたちを含めて、どのように考えていくかなど話し合いを進めていきたいと考えていますので、ご理解いただければと思います。
7	教員の数が不足しているため、学校を減らして教員が足りるようにするとありました。教員不足であれば、待遇改善や業務軽減など、教員を増やす取り組みを行ってから、学校を減らすなどの話になるべきだと思います。教員を増やす取り組みはされているのでしょうか。	教員の働き方に関して、業務負担が非常に重くのしかかっていることが、全国的にも問題視されています。教員が負担に感じている部分を軽減するための対策は、学校の中でもしっかり考えていかなければいけません。教員の魅力を広めていながら、今後、教員の不足を解消する取り組みが必要であると思っています。 また、教員確保が難しいために統合することではありません。教員確保が難しいという現状から、35人学級をさらに少人数の学級とするなど、市独自の設定をすることは難しいと考えています。
8	もし統合した場合、現在は10分から20分で登校できていても、通学時間が長くなる場合があるとのことでした。『あり方基本方針』には、通学時間は1時間までとありましたが、1時間はさすがに速く、交通量の多い道もあります。スクールバスや見守りを増やすなど、具体的な配慮とはどのようなことか教えていただきたいです。	『あり方基本方針』には、「仮に統合等によって通学距離が他の学校と比べて過度な負担となる場合は、状況に応じて公共交通機関の利用やスクールバスの導入など合理的な手法を検討します」と記載しております。通学距離や時間が過度な負担となる場合、公共交通機関が利用できる地域や利用できない地域など、さまざまな状況が考えられます。今後の状況を考慮した上で、適切な対応を検討してまいります。
9	保護者や児童へアンケートを取るとありましたが、今、在校している児童や保護者が対象でしょうか。これから入学する予定の子育て世代の話をもう少し聞いていただきたいです。小規模校には小規模校の良さが、中規模校には中規模校の良さがあることを分かって、この地域へ引越してきたので、聞いていただきたいです。	今後、懇話会のメンバーなどと相談しながら、どのような方を対象にアンケートを行うかということも決めていきます。就学前の保護者の方も含めて声を聞いてほしい、というご意見があったことも踏まえ、進めていきたいと思っています。
10	小学校の話が最初にあり、途中から中学校のクラス数なども出てきて、最後のほうは清和台地区3校の協議会と話が進みました。小学校の話なのか中学校の話なのか、改めて教えていただきたいです。	『学校のあり方基本方針』は、小学校も中学校も含めて、市内全域の川西市としての考え方をまとめたものとなっています。この基本方針に照らしてみると、川西市内では、1学年1クラスという学校が、清和台小学校と清和台南小学校の2校となっています。今後、検討していくにあたり、各小学校の学校運営協議会の皆さんと集まるのですが、進学先である清和台中学校の方にも参加いただくべきだろうということで、整理しております。
11	中学校が検討の場に参加されることについてです。『あり方基本方針』に、小中一貫や小学校の統合の話が、検討の1つの課題として記載されています。小中一貫も含めて検討の課題として議論されるのか、統合の話に中学校の先生の立場でいろいろなことを話すのか、どのような形の参加になるのでしょうか。	当面は、小規模化した小学校2校をどうするという話ではありますが、現時点で、3つの方向性が考えられます。1つ目は、このまま小規模校で工夫して運営していく。2つ目は、小学校を統合する。3つ目は、小中一貫校のような形はどうかということです。今後、説明会や懇話会などで意見をいただく中で、4つ目、5つ目の選択肢が出てくる可能性もあると考えております。

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月22日 10時～ 清和台小学校

発言順	質問	回答
12	清和台に来て50年になり、子どもも清和台小学校を卒業したので、非常に愛着があります。しかし、教育上、学校運営の問題など、いろいろなメリットもあるという話を聞き、これは統廃合を早急にやるべきだと思いました。統廃合ということは必ず問題が起きますが、5年、10年待っては意味がないと考えます。過去に、清和台小学校が廃校になるという話が出た時にも、様々な問題に関して議論されていると思うのですが、経緯を伺いたいです。	今後のスケジュールについては、令和7年度の1年間で何か結論を出すという意味ではなく、手順を示したものです。この中で早く方向性や結論が出れば、動いていきますし、反対に意見がまとまらない場合は、令和8年度に続くという形になります。パブリックコメントでも、清和台小学校に対する愛着があるので反対という意見と、単学級が非常に心配なので早く統合してほしい、という意見が一定ありました。前回の白紙撤回時の反省も踏まえ、地域の意見をしっかり聞き、対話を続けて、着地点を見つけていきたいと考えています。また、出生数から見ると、0歳児は約20人です。この状況下で小学校を統合したとしても、再び単学級の問題に直面する可能性があります。もっと広い視点、長期的な観点で清和台地区の学校のあり方を考えていくことも重要です。その中で、小中一貫教育など他の選択肢についても検討しているところです。もちろん、現時点で具体的なプランはありません。説明会を通じて進捗状況を報告し、その場でいただいた意見を反映していくという形で丁寧に進めていきたいと考えています。
13	以前の統廃合の説明会で、簡単に転居もできないので、廃校になったところへ私学などを誘致して欲しいという意見がありましたが、難しいという回答でした。教育の質や多様性を考えるのであれば、学校の誘致も積極的にしていくのがいいと、個人的に思っています。	跡地の活用に関しては、私学の誘致も含め、学校の機能以外にも、地域交流の場所や避難場所など、さまざまな機能を持たせるべきだという意見をいただきました。市長事務部局とともに、まちづくりの観点から跡地の利用について検討しています。仮に統合する場合は、その跡地の活用方法について意見交換をしながら、同時並行で考えていく必要があると思っています。
14	スクールバスの検討とありますが、市立清和台幼稚園が閉園になる時に、公立は絶対しませんという話で結論付けられていました。スクールバスは、山間部などは自治体で運営しているところもあるので、市立として絶対できないということが言いつけにしか感じられません。もう少し、真剣に考えていただきたいという思いです。	公立学校のスクールバスの基本的な考え方は、校区の中を走らせるというものです。幼児教育は、公立と私立が協働で教育を行うという考え方が基本であるため、清和台幼稚園の閉園時については、他地域の就学前施設までスクールバスを走らせることは難しいということでした。教育委員会としては、子どもが安全に通学できるような支援を、市長事務部局とも協議していきたいと強く思っているところです。
15	通学が遠くなってくると、子どもの見守り110番のお家の必要度が増すと思います。しかし、旗が揚がっていても、子どもが駆け込むような状況になった時に、在宅か不在かが分かりません。子どもが逃げ込むために、通学の安全を守るためにどうしたらいいかということ、通学の距離に関わらず考えていただきたいです。	一番心配なのは、通学距離が長くなることと通学に時間がかかることです。それに対する支援をどうするかについて、多くの意見をいただき、私も同意しています。ただ、現在は統合するかどうかを含めた議論の段階です。今後、もし統合が決定すれば、通学に関して具体的な条件や支援についての話も出てくると思います。やはり教育委員会としては、子どもが安全に通学できるような支援を市長事務部局とも協議していきたいと強く思っているところです。
16	資料について、今後のスケジュールの部分に、「まちづくりの視点」のスケジュールも並行して示すようにしておく、まちづくりの視点があって、教育、学校の問題があるということがわかりやすいのではないかと考えます。	ご意見として賜ります。
17	教育委員会と市長事務部局との連携が見えにくいと思います。この約10年の中で、どのような取り組みをされてきたのか、具体的な施策はあったのかも公表した方がよいと思います。今後の連携の状況を伺いたいです。	以前は、具体的な統合計画をもって、地域への説明を行いました。教育委員会としては、まずは子どもの学びの場を第一に考えるということ、統合が決定していない中で跡地利用の話をするのは問題ではないかという思いがありました。しかし、地域の方からは、跡地がどうなるか分からない中では、なかなか議論ができないとのご意見をいただきました。このような経緯を踏まえ、今回は、もし統合となった場合の跡地利用についても、併せて議論していく、という手順で進めています。市長事務部局とも一緒に協議をしているところです。ただ、学びの場についての議論と並行で進める形になるため、一定の方向性が出てから、具体的に動くことになっていると思っています。また、本日の説明会や懇話会の内容を受け、必要に応じて、まちづくりの協議会も立ち上げたいと考えています。
18	市長が、令和7年度の予算で、全小中学校の体育館にエアコンを入れると言われていました。清和台小学校の体育館にも、多額のお金を投じて空調を入れるのであれば、学校はまだまだ続くのかなと思ってしまっているところなのですが、体育館だけ残して売却などもあるのか、今後についてお聞きしたいです。	令和7年度に、清和台小学校も清和台南小学校も含め、市内16小学校の体育館全てに空調設備を整備する予定としております。繰り返しになりますが、現時点で、統合する方向に進んでいるわけではありません。現在通っている子どもたちが体育館で活動しやすい環境を整えるために、空調を整備する予定としております。
19	全国には、1学年1クラスという小規模校はたくさんあると思います。小さい学校が子どもたちにとって良くないということ、は、証明されていないと聞いています。学校は地域の本当に大事な場所であるので、小さい規模であっても、維持して充実させていく方向で考えていただきたいです。	今後、保護者の皆さまとも話をしていくに当たり、小規模の学校でもよいのではないかとのご意見があったことも認識した上で、進めていきたいと思っています。
20	国連こどもの権利条約では、子どもの意見表明権というものがあります。今、学校に通っている子どもたちの意見をじっくり聞き、子どもたちがどう思っているかということも調査した上で、検討していただきたいと思っています。	教育委員会としても、子どもたちの意見を聞くことは、非常に大切であると認識しております。いただいたご意見を踏まえ、今後の懇話会や説明会に取りこんでいきたいと思っています。
21	この会に参加できない人も意見が伝えられるよう、たくさんの意見が届く仕組みを作っていただきたいです。	本日の説明会の内容や、今後行う懇話会での話し合いの状況などを、逐一、ホームページにおいて発表していく予定です。会場にお越しになれない方も、ホームページを通じてご意見いただけたらと考えておりますので、近くにそのような方がおられたら、お知らせいただけると幸いです。
22	子どもたちにとって何が幸せであるかということ、を、まず第一に考えていただきたいです。そのため、アンケートは急いで取っていただきたい。小規模だから不幸せということは全くなく、小規模だからこそできる教育もあります。清和台南小学校との交流や、縦のつながりを大切にした教育など、小規模だからこそできる教育についても議論した上で検討いただきたいです。	いただいたご意見を踏まえ、今後、懇話会や説明会などで話し合いを進めていきたいと考えています。
23	学校運営上の課題や教員の業務負担について、小規模で1人当たりの仕事が多いからといって、本当に負担が大きいのかということも資料として示していただきたいです。大きな学校を動かす仕事と、数は多くても小さい学校で先生同士の距離が近い中で進める仕事は、同じではないと考えます。	ご意見として賜ります。

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月22日 14時～ 清和台南小学校

発言順	質問	回答
1	校務分掌といわれる業務が教職員に対してとても負担になっており、クラス数が増えるにつれてプラスアルファで教職員が配置されるため、人数が多い方がありがたいという話だと理解しました。小学校の組織としては、清和台南小学校と清和台小学校で一つと見なし、校長は1人とするが、校舎は第1校舎と第2校舎として残すという、組織と箱物を分けたような運営は可能でしょうか。 また、いじめの観点から考えると、いじめっ子といじめられっ子を同じ建物の中に入れて、隣の教室にいるよりも、分校にして物理的に距離が離れたところを選択してできるメリットもあるのではないかと思います。	2つの校舎を活用するという形、分校という仕組みがあるため、その中で考える可能性はあると思います。しかし、単学級の課題を解消するために、例えばA校舎で1年生を固める、B校舎で2年生を固めることをした時に、課題となる集団教育が確保できるのかといった議論が必要だと考えます。また、教職員の立場からも、管理職の対場からも、離れた場所の学校を両方見るということは、現実的に難しい問題であるように思います。 アイデアをいただきましたので、先行の実例があるか等、詳細にまた調べさせていただきたいと思います。
2	小さい子どものいる親の身からすると、低学年の子どもに、大通りの交差点を渡せたくはありません。通学時間おむね1時間以内と書かれていても、親の感覚からは全くずれており、小さい子どもに1人で信号を渡せたら事故のリスクなどがあると思っています。校区が残る側であれば別にいいかなと思う反面、残らない校区の側からすれば、自分の子どもが大通りを渡らなければいけないという点は、とても心配だろうと思います。	通学の安全確保につきましては、『学校のあり方基本方針』にありますとおり、仮に統合などになって通学の負担が大きくなる場合は、さまざまな負担軽減、安全確保の手段を考えていくことになります。ご意見いただいた視点も大切にしながら、検討していく必要があると考えております。
3	何十年前からの仕組みではなく、今の新しい技術や考え方、オンライン授業の取り組みなど、今後の10年、20年先の考え方を先行して取り入れるということを考えないと、新しい地域づくり、学校づくり、教育づくりが成り立っていかないのかなと思います。 学校の先生の負担を考えた時に、学級人数30名というのはかなり負担があるように聞いています。海外の事例を見ると、大体10名から20名と聞いています。グループ活動する場合は、その10名、20名の単位を2つ、3つ合わせてグループ活動させるなど、柔軟な対応を取っていくのが今のグローバルの中での考え方なのではないかと想います。	今後、学校運営協議会の皆さんと検討を進めていくに当たって、オンラインの活用や海外の事例にも目を向けつつ、進めていきたいと考えております。
4	清和台南小学校は令和6年度から担任制がチーム担任制に変わり、3年生から6年生対象で、6人の担任の先生が1週間ごとに変わっていくようになりました。その制度になり1年経ちました。チーム担任制になって、教職員の方の校務分掌の負担は何か変わったのですか。	担任としての負担はチーム担任制で軽減する部分もありますが、校務分掌はなかなか難しい部分があります。校務分掌というのは、各学校の校務分掌の担当が集まって検討するということもあり、自分の学校だけで勝手に増やしたり減らしたりということができません。教職員の数が少なくなると、どうしても、1人で2つ、3つ、4つと複数の分掌を持たなければいけない可能性が非常に大きく、チーム担任制が、直接、校務分掌の軽減につながったかという、少し難しい部分があるのではないかと思います。
5	少子高齢化で、今後、清和台地区の子どもの数が大幅に増えることは恐らくないのだろうと思います。教職員の人員不足ということも考えると、私としては、統合していった方がいいのかなという考えです。 ただ、通学路の変更というところで、遠方の方だと、安全性や通学時間などの不安要素があると思います。スクールバスを検討するということはあるのか伺いたいです。	通学について何らかの支援を行う必要があるということは、教育委員会としても強く認識しているところです。平成27年の説明会の際も、保護者の方が、通学上の安全を一番心配されていました。しかし、統合するかどうかも決定していない段階で、踏み込んで具体的な支援方法をお約束はできない、という現状があります。 説明会で通学に関する意見が出ており、何らかの支援が必要であるということについては、市長事務部局にも話をしております。具体的なことはまだお伝えできませんが、教育委員会としても、市長事務部局としても、強く認識しているところです。
6	清和台南小はチーム担任制を取り入れています。始まったばかりで、良い点や課題などを今後どうしていくかという状況です。一方、清和台小学校は、それを取り入れていないと聞いています。 望ましい学校規模について考える際、小規模校での懸念事項がある中で、チーム担任制、教科担任制を取り入れていくことを考えてくださったはずなのに、一体どうになってしまうのかなと思います。教育課程の違う学校を一緒にすることでは、何のために先行実施で始めたのだろうと疑問に思うところがあります。	仮にチーム担任制をしている清和台南小学校が統合となった場合には、統合の相手校のこういった運営がいいのかということとはしっかり擦り合わせる必要があると考えております。
7	新しい人が地域に加わることで、いろいろな意見が交わされ、地域が成り立っていくと思います。しかし、高齢化と過疎化が進む中、小学校の統合が新しい住民を減少させる可能性もあると考えています。これは清和台地区だけの問題ではなく、川西全体で考えるべきです。特に清和台地区では、公共交通機関がバスしかないという課題があります。清和台が先行事例のようになり、同じようにバス利用の地域で過疎化が進むのではないのでしょうか。 随時、地域に意見を返しながら、何度も話し合いを重ねて決めていってほしいというのが、この地区に住む保護者としての思いです。	現時点で統合を決定する説明会ではなく、単学級が継続して出ているので、情報を共有させていただき、今後どういった在り方が望ましいのかという話し合いをスタートさせていただくという説明会です。 選択肢としては、例えば、小規模校でそのまま工夫しながら存続していく、小学校同士を統合する、中学校を含めて小中で統合を考える、先ほどご提案いただきました分校のような仕組みはどうかなど、さまざま選択肢があると思いますので、その中でしっかりご意見をお伺いしながら考えていきたいと考えております。
8	まちづくりの観点で小学校を統合し、一つの小学校がなくなるとなると、清和台地区の住民が災害に見舞われた場合のキャンペーンについて考える必要があります。家の耐震構造から避難者がどれほど押し寄せるかを考慮して、一つの小学校で対応できるのが問題です。また、学校に備蓄倉庫や消耗品がある場合、誰が管理するのかという観点も重要です。教職員が行うのか、外部委託するのかという点について、今回、危機管理課の方がなぜここにいないのが疑問でした。今日は教育がメインの話という説明があったため納得しましたが、まちづくりの観点からも、様々なステークホルダーを交えて住民に詳しく説明することが大切だと思います。	統合はまだ決まっていますが、将来的に統合へと進んだ場合には、危機管理課や住宅政策など、いろいろな部門と協力し、検討することが重要だと考えています。また、教育の観点であれば、子どもや保護者の皆さんがメインのステークホルダーになると考えますが、まちづくりという観点で考える場合には、もっと広くご意見を伺う必要があると考えています。いただいたご意見のとおり、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月23日 10時～ 清和台公民館

発言順	質問	回答
1	清和台小学校は、来年度は、全学年が単学級になると思います。現在は、例えば、4年生であれば、音楽以外に図工と理科を専門の先生に教えていただけていますが、教員の配置が少なくなるために維持出来なくなることがあるのでしょうか。	学級数が減った場合、教員の配置数は、県の規準に従って減ることになります。図工や音楽など、専科の先生については、学校の中で工夫しながら配置を考えていくことになると思います。
2	兵庫県の教職員配置の規準というのが何年前の規準ですか。見直し等はないのでしょうか。子どもの数が減るから教員の数が減るという事を保護者に言うのではなく、兵庫県に対し、過疎化している地域に人員を増やせないかなど、要望は上げているのですか。	要望は、以前より、それぞれの団体の中で出し続けているところです。教員の加配措置を求める要望は、川西市だけでなく、全国の教育長の教育会議でも出しております。しかし、1人の正規教員を雇用することは、その分の生涯賃金を担保するということになるため、文部科学省と財務省との交渉でも、厳しい状況があると聞いております。
3	今回の説明会は、あくまでも統合するかは全く決まっていなかったことが前提であり、懇話会を設置し、検討していくことについて、地域の了解を得たいという趣旨だと受け止めました。 懇話会の構成については、例えば資料では公民館長や校長先生がメンバーとなっています。公民館長は市の職員であり、校長先生は教育委員会の方針に従う立場にあるため、教育委員会の方針と違う方向の意見が出せるのか疑問です。委員には公募で市民を含めるなど、市民の意見が公正に反映できるようにしなければ、理解と納得を得るのは難しいのではないかと思います。	まず懇話会について、何かを決定していくという場ではありません。子どもや保護者のアンケート、意見交流会などと同じ位置付けであり、意見をいただく場の一つということになります。決定していく場面があれば、教育委員会で決定していく形になります。 また、懇話会のメンバーに関しては、これから学校運営協議会とも相談させていただきますが、保護者の方や地域の方の声を聴きたいと思っておりますので、そういった方にメンバーとなっていただければと考えております。
4	令和7年度の小学1年生は、各学校に何名ぐらい入る予定で、次の8年度まで分かっているのですしたら教えてほしいです。	令和7年度の新入生について、現時点では、清和台小学校が30人、清和台南小学校が29人の入学予定です。 今後の入学者の見込みは、現時点では住民基本台帳の数字を基にした推計の数字となります。令和8年度は、清和台小学校が27人、清和台南小学校が29人という児童数です。
5	単学級は今後も続く予想される中、統合して人数を保つことで、教員数の充実や子どもたちのクラス替えなど、コミュニケーション能力を高めるところは、納得のいく説明でした。 以前、統合の話が出た際に、登校の問題が非常に大きかったと聞きました。前回は、清和台南小学校を使うということだったので、石道などから来る子がとても速くなる。6年生なら登校できるが、1年生は大変ではないかという意見がとても多かったと聞いています。まだ検討段階であると思いますが、今後のことを考え、どのような検討がされているのか、お伺いしたいです。	登下校については、『あり方基本方針』に「統合等によって通学距離や通学時間が他の学校と比べて過度な負担となる場合、状況に応じて、公共交通機関の利用やスクールバスの導入など、合理的な手法を検討します。」と記載しています。ご指摘のように、通学の不安の声をいただいたということもあり、今回の基本方針の中に盛り込みました。今後、統合の方向に進んだ際は、具体的な方法を検討していきたいと思っています。
6	小学校に通う孫からは、クラスの人数が少なくても、友達関係が非常に良く楽しいと聞いています。一人は神戸市の17人のクラスに通っていますが、先生との関係がづくりやすいということです。一人一人に行き届いた教育が実現できるのであれば、単学級だから、という問題はないのではないかと思います。 今後、時間をかけて検討する中で、単学級の問題だけではなく、1クラスの子どもの人数が減っていくことについて、保護者も満足しているのであれば、統合ではなく現状維持という結論もあり得るということでしょうか。	もちろん、小規模校の良さというものもあり、通われている学校は、その良さが発揮できているのだと思います。一方で、小規模校の懸念事項もあり、人間関係がうまくいっている時には問題はありませんが、人間関係でトラブルが生じた時にクラス替えができなかったり、教員の負担が一定生じることで、子どもに向き合う時間が削られてしまったりということもあると感じています。 今後、そのような小規模校のメリット・デメリットも踏まえながら、検討していくという状況です。
7	前回、平成27年に教育委員会が統合の方針を出し、31年に撤回したということですが、いったん撤回しながら、またもう一回考えるということになった経緯について教えていただきたいです。	一つ大きかったのは、将来の児童数の推計に基づいて進めるのは早いのではないかと、状況が変わるのではないかとという意見がありました。今回は、現実的に単学級が出てきているという状況が継続していることから、懇話会や地域説明会などの回数を経て進めていくという形を取らせていただいています。
8	両小学校の児童数の推移について、全国的に少子化ですから、どんどん減ってくることは分かります。川西市の人口の推移と相関があるかどうか教えていただきたいです。特に、これからの小学校就学の児童数、子どもがおられる家庭の数の推移などをお聞きしたいです。	川西市におきましては、子育て、子どもがおられる世帯の転入が転出よりも多いという状況です。ただ、全国的な少子化傾向と同じく、地域ごとに違いはありますが児童数は減っています。『あり方基本方針』にも川西市全体の児童数の推移を記載していますが、川西市全体と清和台地区の児童数の減少は、同じような推移をしていると考えています。
9	個人の経験です。小学校の分校で1学年8人で4年間複式授業を受けていましたが、人数が少ないため、スクールカーストのようなものができ、いじめの対象になった子がいました。その子はその経験が今でもトラウマになっています。少人数クラスにはメリットもありますが、問題がこじれると大変です。 私も学校に行くのが4年間嫌でしたが、その後、本校に行くと人数も多くなり、学校生活が楽しくなりました。家族は多くのクラスがある学校に通っていました。クラス替えが頻繁にあり、毎回新しい顔ぶれで新鮮な気持ちで勉強できたと言っています。 現在、統廃合の動きがあり、小中一貫校の設立が進んでいます。例えば、広い地域の能勢町でも小中一貫教育が行われ、豊中市でも進んでいます。個人の意見としては、けやき坂を含む清和台中学校区全体で小中一貫校を設立し、特別支援も含めた学園を作ることが望ましいと思います。	今後、懇話会の皆さんとお話しする際には、今のご意見があったということを踏まえて進めさせていただきたいと思います。
10	現在、清和台小学校が9クラス、清和台南小学校が10クラスで、合計数23名の教職員の方がいるという認識です。23名の教職員の方をそのままとした場合、20クラス必要だと考えます。仮に統合した場合、1学年2クラス、全学年で12クラスとなり、特別支援学級も含めて、合計15クラスから17クラスだと思っています。教職員の方はトータルとして減るという認識なのですが、教職員が減ることにより、子どもたちが教育を受ける機会が減ってしまうのではと考えますが、いかがでしょうか。	1学年1クラスでは、担任だけで学年を運営することになります。2クラスになると、違う目で子どもをアセスメントでき、複眼的に子どもを理解したり、相談しながら取り組んだりできることが大きな違いです。 また、担任以外でフリーに動ける職員がいれば、校外学習引率の人員を確保しやすいという面もあります。 たしかに、教職員の総数が減少する形にはなりますが、学校の中で適切な配置を行うことで、教育に影響が出ないよう運営していくことができると考えます。

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月23日 10時～ 清和台公民館

発言順	質問	回答
11	このままいくと清和台の子どもが少なくなっています。前回の白紙撤回から現在までの間の改善の方向など、何か動きがあったのでしょうか。	期間が空いた理由の一つは、コロナ禍です。令和2年から5年にかけては、従来の教育を維持することも大変で、学校をどうしていくかという議論に至りませんでした。 一方で、この10年間で子どもの数が減少する中、小学校はそれぞれ工夫を凝らしながら小規模化に対応し、教育活動を進めてきました。担任制をやめて学年担任制をしたり、1年生から3年生が混在する縦割りクラスで運営するという先行事例の研究をしたりと、子どもたちの関係が固定しないような取り組みをさまざましているところです。両小学校ともに子どもたちの関係性は良好であり、学校教育は十全に展開できていると認識しています。 これから懇話会や説明会を通じて一定の方向性が見えてくるならば、清和台南小学校と清和台小学校が連携して行事や授業を行うことも検討する必要があるかもしれません。ただし、この点についてはまだ未定です。
12	能勢町も、地域の高齢化と共に子どもが減少しています。そのため、クラスの人数を増やして切磋琢磨できるようにと、統合して学校を建てました。しかし、町全体の人口減少に伴い、開校当初は複数クラスだったものが、徐々に単学級化していると聞いている。同様の取り組みを進めた場合は、将来的に再び単学級になるのではないかと考えています。まちづくりの一環として、市全体の人口を増やす方策が必要ではないかと思っています。学校がなくなると地域の衰退が進むという議論は、全国的に行われており、あわせて考えていただきたいです。	ご意見として賜ります。市長事務部局へもしっかり伝え、参考にさせていただきたいと思います。
13	川西市内で小規模校といわれている小学校と、大規模校がどの程度ありますか。例えば川西能勢口のキセラの辺りは人口が増えてきていると思うのですが、その辺りの小学校は、複数クラスができているのかを知りたいです。	単学級が出ているのは清和台地区のみです。市内の状況としては、1学年で4クラスの学校もありますが、全体的には、1学年3クラスが多い現状となっています。
14	市の中心部にある大きい規模の小学校の教員が、清和台地区のフォローに入るというような体制作りは難しいですか。	大規模校から小規模校に教員を派遣することは、距離の問題や、教員の配置が基本的に学級数で決まっているため、現実的には難しいと言えます。ただし、通級指導を担当する先生の場合は、中学校区のエリアを移動し、他校の児童を指導することがあります。
15	現状、清和台小学校や清和台南小学校で、1学年1クラスであることで何か問題は起こっているのでしょうか。個人としては、清和台南小と清和台小はこのままでいいのではという意見です。何かあった場合のクラス替えができないとありましたが、現状、大きなトラブルなどがあったりして、変化が必要な状況であるのか、教えていただきたいです。	現状、何か課題があるから動いているということではありません。既に実態として、小規模化してきたということから、『あり方基本方針』の規準に照らし合わせ、まずは説明させていただいています。 今後の選択肢としましては、現状の小規模校の良さを生かして教育を続けるのも一つですし、2つの小学校を統合することや、先ほどご提案いただいた小中で統合することもあると考えます。また、懇話会や説明会で意見をいただく中で、4つ目、5つ目の選択肢もあるかもしれません。今後、どのような形が子どもたちにより良い教育を提供できるのかを考えていきたいと思っています。
16	一つの意見として。少人数の学校の良い点として、学年を超えた交流が深いことが挙げられます。子どもが、卒業式の前にもう一度6年生にお別れを言いに行くと言っており、私の時にはなかった発想なので良いことだと思いました。大規模校にも小規模校にもそれぞれメリット・デメリットがありますが、学年を超えた交流という点では小規模校にもメリットがあると感じます。	ご意見として賜ります。
17	2025年度はいろいろ進めていかれるということですが、1年間様々な議論を進めていく中で、来年度の3月頃に何かしらの結論を出そうとされていると思うのですが、どのような結論をイメージしているのかを教えてください。 また、今回は学校に関する話かとは思いますが、この清和台地区を将来的にどのように考えておられるのかについても伺いたいです。その上で、学校の統廃合が必要とされる理由や、どのような検討が行われているのかについても教えてください。	2025年の1年間のスケジュールについては、現段階ではあくまでイメージとして作成しています。例えば、今回のような地域説明会や懇談会のタイミングなどを分かりやすく示すために、仮に1年間のスケジュールを設定しています。 今後、様々な意見を聴く中で、この期間が短くなる可能性もあれば、逆に延びる可能性もあります。そのため、どの時点でどのような結論を出すかについては、まだ具体的な考えは持っていません。 まちづくりに関しては、2つぐらいイメージがあると思っています。清和台地区をどのようなまちにしていけるのか、という広い範囲のまちづくりと、今回、教育委員会が説明したまちづくりというのは、仮に学校を統合した後の跡地をどうするのかという、少し狭い範囲のまちづくりになります。 清和台地区をどうしていくのかについては、市長事務部局のほうで検討は進められていると思いますが、その中で、現状として小規模化している現状がありますので、まずは情報を共有させていただいて、少し協議を進めていくというのが今の段階です。
18	適切な学級規模、学校規模というのは、もう10年前に結論を出しているにもかかわらず、なぜ、今すぐ統合しないのか理由を教えてください。	白紙撤回ということで、ゼロから手順も含めてやり直すということで市長からも指示を受けています。今回、作成した『あり方基本方針』に基づき、地域に説明させていただくという手順といたしました。統合を早く進めてほしいとの声も聞いていますし、反対に、もっと慎重に進めていってほしいという意見も聞いています。その中でスケジュールを描いているため、意見を集約する方法には課題もありますが、このような手順で進めていくことをご了解いただければと思います。
19	子どもたちにとって、学級規模については様々な意見があると思います。少人数が好ましいという意見や、20人や40人規模が良いという意見などです。しかし、問題があるかないかではなく、学年の規模については、ある程度の規模がある方がベターだと考えます。 現在の規模が適切でないのであれば、子どもたちは適切でない環境で学んでいると言えます。この状況は子どもたちにとってかわいそうだと思います。したがって、早くに統合を進めることが良いと思います。	適切ということではなく、できたらこうあった方がいいのではないかという意味で『望ましい学校規模』とさせていただいています。学校運営上で言えば、これぐらいの学校規模であれば、実際に運営がしやすいだろうということです。 大規模校だから、小規模校だから、と一面的に判断することは難しいと考えています。

清和台地区 地域説明会質問一覧

3月24日 19時～ 清和台公民館

発言順	質問	回答
1	説明資料には白紙撤回の経緯がシンプルに書かれていますが、当時の白紙撤回の経緯について詳しく教えていただきたいです。	保護者や地域住民の声としては、統合先がなぜ清和台南小学校なのかという意見がありました。一番大きかったのは、当時はおおむね各学年2学級であり、これから減っていくだろうという推計を基に取り組んでいこうとした中で、現実的にはどうなるかわからない要素があるのに統合するのはいかがなものかという意見も出てきました。 当時の教育委員会としては、実際に単学級が出てきた状況から動き出すのが妥当であろうと判断し、現在の形になっています。
2	現状、単学級の問題が顕在化して誰の目にも見えるようになったので、当時の案を復活させても今であれば比較的スムーズに事が運ぶのではないかという感触を持っていますか。	前回の説明会では、清和台南小学校に統合すると検討した上で行いましたが、清和台小学校の保護者や地域の方にとっては、地元の学校を存続させてほしいという気持ちもあり、なぜ清和台南小学校なのかという意見をいただきました。 今回は、単学級が出てきている現状があるため、これから話し合いをしていきます。教育委員会としては、前回の反省も踏まえて、どちらかの学校に統合することや、どのような形にするかなどは決めておりません。懇話会やアンケート、説明会を経て、原案を作っていきたいと考えています。
3	どちらの学校になるかは分からないと言われていたが、例えば清和台南小学校になった時と清和台小学校になった時に、それぞれ一番遠い地域から何キロ離れているのか知りたいです。	まず、今現在、統合が決まっているわけではありません。今後の選択肢としては、小規模校として工夫をしながら、現在の2校を存続する、小学校統合、中学校を含めて小中一貫校など、幾つか選択肢があると考えています。 ご質問の通学距離については、小学校2校を清和台南小学校に統合した場合、一番遠い通学距離は約2.5キロ。清和台小学校に統合した場合、約1.5キロが、最長の通学距離となります。
4	川西養護学校の学校運営協議会の委員は学識経験者から福祉、医療に関する保護者代表、同窓会と幅広く、この地域で育った方々のサポートをとしてくださる方なので、できれば情報としていただけるのであれば清和台地域の中での学校の一つとして、川西養護学校のこともお考えいただけるとありがたいです。	ご意見として賜りたいと思います。
5	資料に『地域にとって重要な機能』という用語があるのですが、2校とも運営されている時には当然学校としての機能があり、災害が起きた時には避難所になります。それ以外で、住民交流の場に使われていることはあるのでしょうか。 仮にどちらかの学校が統合されて廃校になった時には建物として残るだけで、そこは自治会が使うなど一般住民にいろいろなセミナーや、スポーツなどで開放されるものであって、その時には市の部署のどこかが管理をされるにしても教育委員会としては関係がないのではないかと思います。そのような意味では、地域にとって重要な機能というのは分かるようで大層な話と理解をしましたので、その辺に一言ご説明をお願いします。	住民交流の場としての具体的な例としては、清和台南小学校にはテニスコートがあり、地域の方がテニスを楽しんでおられるなど、グラウンドも含めて活用いただいている場面があると認識しております。 仮に統合となった場合の跡地利用につきましては、ご指摘いただきましたように教育委員会の管理ではなく、市長事務部局の管理となります。前回の統合計画の際に、統合した後の跡地はどうなるのかという質問がかなり早い段階で出ていました。統合も決まっていないのに跡地利用の説明はタイミングが違くと判断していたのですが、跡地がどうなるのかを含めて検討しなければ考えがまとまらない、というご意見もいただきました。 そのため、今回、仮に統合という話が進んでまいりましたら、その段階で市長事務部局に学校のあり方とは別に、跡地をどうするのかを協議する場、あり方を検討する場を並行して設置していく必要があると考えております。